

令和3年7月7日

記者発表



今年^は和歌山県が誕生して150年！

「和歌山県誕生150年記念式典」を開催します！

明治4年（1871年）11月22日、和歌山・田辺・新宮の3県の統合により、現在の和歌山県が誕生しました。

誕生150年を記念し、これまでの県の歴史を振り返るとともに、未来を考える機会となる記念式典やパネル展を開催します。

県民の皆様が、郷土についてさらに理解と関心を深めることで、ふるさとを愛する心を育む機会といたしますので、是非とも会場にお越しください。

※11月22日を「ふるさと誕生日」として条例で定めています。

記念式典

観覧者の募集は7月10日から8月20日まで

日時：令和3年9月25日（土）12:30～17:00

場所：和歌山県民文化会館大ホール

内容：記念講演 御厨 貴氏

「和歌山の近代150年を問う」

辻原 登氏

「わが生地、わが聖地・熊野」

和歌山県文化表彰受賞記念演奏

辻本 好美氏（尺八）

中谷 政文氏（ピアノ）

未来へのメッセージ（小中高校生による作文の朗読 3名）

（県主催作文コンクール各部門最優秀賞受賞者）

映像上映「和歌山県のあゆみ」



明治22年に新築された和歌山県庁

※記念式典に併せて物産販売を行います。（場所／県文前広場 時間／11:30～17:30）



御厨 貴氏



辻原 登氏



辻本 好美氏



中谷 政文氏

記念パネル展 **申込み不要**

日時：令和3年11月19日(金)～22日(月)9:00～17:00(最終日は16:00まで)

場所：和歌山県民文化会館特設展示室

内容：パネル展示、映像上映 他

巡回パネル展 **申込み不要**

期間：令和3年8月～12月

場所：県内10ヶ所

内容：パネル展示

令和3年7月現在

展示期間	展示場所	所在地
8月25日(水)～8月31日(火)	和歌山県立情報交流センター ビッグ・ユー	田辺市
9月1日(水)～9月7日(火)	スーパーセンターオークワ南紀店	新宮市
9月10日(金)～9月17日(金)	イズミヤ紀伊川辺店	和歌山市
9月28日(火)～10月4日(月)	湯浅えき蔵	湯浅町
10月5日(火)～10月11日(月)	オークワロマンシティ御坊店	御坊市
10月13日(水)～10月19日(火)	イズミヤ和歌山店	和歌山市
10月22日(金)～11月2日(火)	海南nobinos	海南市
11月4日(木)～11月15日(月)	和歌山県植物公園緑花センター	岩出市
11月24日(水)～11月30日(火)	イオンモール和歌山	和歌山市
12月7日(火)～12月14日(火)	かつらぎ総合文化会館	かつらぎ町

WEBサイト

令和3年7月7日(水)オープン!

観覧者募集の他、詳細はこちらでご覧いただけます。

追加情報は、随時更新してお知らせします。



チラシの主な設置先

各振興局、市町村役場、図書館、文化施設、道の駅 等

担当課	県民生活課
担当者	坂田・楠本・古根川
電話(直通)	073-441-2345

記念講演

御厨 貴(みくりやたかし)氏

Takashi Mikuriya

東京大学法学部卒業。東京都立大学教授、政策研究大学院大学教授、東京大学先端科学技術研究センター教授、放送大学教授などを歴任し、現在、東京大学先端科学技術研究センターフェロー。東京大学、東京都立大学名誉教授。サントリーホールディングス株式会社取締役、サントリー文化財団理事。
内閣府公文書管理委員会委員長、東日本大震災復興構想会議議長代理、復興庁復興推進委員会委員長代理、天皇の公務の負担軽減等に関する有識者会議議長代理など数々の要職も務めた。また、平成19年4月～平成30年9月『時事放談』のキャスターを務めるなど、メディアでも活躍。



辻原 登(つじはらのぼる)氏

Noboru Tsujihara

和歌山県印南町出身。平成2年『村の名前』で芥川賞、平成11年『翔べ麒麟』で読売文学賞、平成12年『遊動亭円木』で谷崎潤一郎賞、平成17年『枯葉の中の青い炎』で川端康成文学賞、平成18年『花はさくら木』で大佛次郎賞、平成22年『許されざる者』で毎日芸術賞、平成23年『闇の奥』で芸術選奨文部科学大臣賞、平成24年『韃靼の馬』で司馬遼太郎賞。他に『家族写真』『発熱』『冬の旅』『籠の鸚鵡』『卍どもえ』等著書多数。日本芸術院会員、神奈川県立神奈川近代文学館館長。



和歌山県文化表彰受賞記念演奏

辻本 好美(つじもとよしみ)氏

Yoshimi Tsujimoto

和歌山県橋本市出身。平成22年東京藝術大学音楽学部邦楽科卒業。平成25年日本大使館主催トリ・アルゼンチン南米ツアー公演、平成26年中米ツアー公演、スペイン国交400周年事業での演奏など、国際的に活躍。平成28年史上初の女性ソロ八奏者としてメジャーデビューし、アルバムがワールドチャート1位を獲得。海外公演は24ヶ国34都市を超える。国内ではFIFA U-20女子ワールドカップJAPAN2012、天皇皇后両陛下ご出席の第3回野口英世アフリカ賞授賞式及び記念晩餐会など様々な舞台で演奏。平成26年橋本市文化奨励賞、令和2年和歌山県文化奨励賞、大桑文化奨励賞を受賞。



中谷 政文(なかにたまさふみ)氏

Masafumi Nakatani

和歌山県和歌山市出身。東京藝術大学音楽学部附属音楽高校を経て東京藝術大学音楽学部器楽科卒業。その後渡米し、インディアナ州立大学ジェイコブズ音楽学部修士課程、マイアミ大学フロスト音楽学部博士課程を修了。第48回全日本学生音楽コンクール全国大会小学校の部第1位及び野村賞、第8回ソフィア国際ピアノコンクール「アルペール・ルーセル」第1位及びY.Boukoff賞など幼少期から現在に至るまで多数の受賞歴を誇る。現在、エリザベト音楽大学演奏科ピアノ専攻専任講師。平成30年和歌山市文化奨励賞、令和2年和歌山県文化奨励賞を受賞。



和歌山県誕生150年 巡回パネル展

期間(予定)	会場
8月25日(※) - 8月31日(※)	和歌山県立情報交流センタービッグ・ユウ(田辺市)
9月1日(※) - 9月7日(※)	スーパーセンターオークワ南紀店(新宮市)
9月10日(金) - 9月17日(金)	イズミヤ紀伊川辺店(和歌山市)
9月28日(※) - 10月4日(月)	湯浅えき蔵(湯浅町)
10月5日(※) - 10月11日(月)	オークワロマンシティ御坊店(御坊市)
10月13日(※) - 10月19日(※)	イズミヤ和歌山店(和歌山市)
10月22日(金) - 11月2日(※)	海南nobinos(海南市)
11月4日(※) - 11月15日(月)	和歌山県植物公園緑花センター(岩出市)
11月24日(※) - 11月30日(※)	イオンモール和歌山(和歌山市)
12月7日(※) - 12月14日(※)	かつらぎ総合文化会館(かつらぎ町)

※令和3年7月現在 ※パネル展観覧の申し込みは不要です。※会場内の設置場所は各会場でご確認ください。

記念パネル展

期間 11月19日(金)～11月22日(月)

場所 和歌山県民文化会館 1階特設展示室

和歌山県の150年を振り返ったパネルの展示、記念映像の上映、懐かしの県広報紙「県民の友」なども展示します。



WEBライブ配信や記念事業の詳細はホームページでご確認ください

http://wakayama150.telewaka.tv



※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、ご来場の際にはマスク着用、検温・手指消毒等の衛生対策にご協力くださいますようお願いいたします。(検温で体温37.5度以上の方は入場できません)
※新型コロナウイルスの感染状況により式典内容に変更が生じる場合があります。

和歌山県誕生150年

未来へと紡ぐ、伝統と誇り

記念式典

令和3年

9月25日(土) 12:30 開演 17時終了予定

会場 和歌山県民文化会館 大ホール 和歌山市小松原通1-1

記念講演

御厨 貴氏

尺八

辻本 好美氏

辻原 登氏

ピアノ

中谷 政文氏

和歌山県文化表彰受賞記念演奏

- 映像上映 150年の歴史を振り返る「和歌山県のあゆみ」を上映します。
- 作文発表 小中高生が「未来へのメッセージ」をテーマにした作文を発表します。
- 物産販売 プレミア和歌山推奨品をはじめ選りすぐりの県産品を販売します。(11:30～17:30)

観覧者募集! 無料!!

和歌山県誕生150年をみんなで祝おう! 記念式典の観覧者を募集します。

観覧希望の方は、代表者の氏名(ふりがな)、郵便番号、住所、電話番号、同伴者の氏名(ふりがな)を明記の上、ホームページ、ファックス、郵便のいずれかの方法でお申し込みください。一回の応募で2人までお申し込みできます。車いす、手話通訳、要約筆記、一時保育の利用が必要な方は、お申し込み時にご記入ください。

ホームページ http://wakayama150.telewaka.tv

FAX 073-452-7380

郵便 〒640-8533 和歌山市栄谷151番地 「和歌山県誕生150年記念式典」係まで

問合せ 和歌山県誕生150年記念式典事務局 TEL.073-455-5721 平日(土・日・祝日を除く) 10:00～18:00



ホームページは上記QRコードからもアクセスできます。

抽選 1,800名

応募締切 8月20日(金) 当日消印有効

当選の発表について

厳正なる抽選のうえ、入場券の発送をもって発表にかえさせていただきます。入場券の発送は令和3年9月上旬を予定しています。

個人情報は記念式典にのみ使用します。ただし、式典後新型コロナウイルスの感染報告があった場合には所定の関係機関へ提出させていただきます。

和歌山県の成り立ち

紀伊半島に位置する和歌山県は、古来「紀伊国」と呼ばれていました。国内には、伊都・那賀・名草・海部・安謐（在田）・日高・牟婁の7つの郡があり、国府は今の和歌山市府中に置かれていました。

以降、室町時代までは地方豪族や在地武士団の盛衰が繰り返されますが、天正13年（1585年）の豊田秀吉の紀州攻めによって、一応の平定をみるることとなります。

関ヶ原の戦い後、浅野幸長が若山城に入り紀伊を治めましたが、元和5年（1619年）紀伊と南伊勢を合わせた55万5千石の紀州藩主として、徳川家康の第10子頼宣が若山城に入城し、紀州藩は徳川御三家として重きをなしていました。このとき安藤・水野両家老が田辺・新宮に支藩として配され、それぞれ田辺城（3万8千石）と新宮城（3万5千石）を治めていました。

明治2年（1869年）紀州藩は、和歌山藩・田辺藩・新宮藩の3藩に分けられますが、明治4年（1871年）廃藩置県によりそれぞれ藩から県に変わり、同年11月22日に3つの県と五條県の旧高野山領が統合され今日の和歌山県が誕生しました。

紀伊国・和歌山県の由来

和銅6年（713年）に、二字の好字を用いて国名をつけるようにとの中央官令があり、この時から「紀伊国」と表記されるようになります。『日本書紀』ではこれを「きのくに」と訓み、これは本県がはじめ「木の国」と呼ばれていたことに由来します。

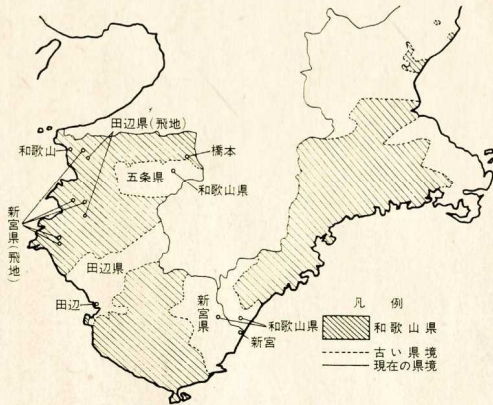
また、「和歌山」の名の由来ですが、元々、和歌山というのは上代の国府、藩政時代の藩主の居住地であった地の呼び名で、その名の由来については諸説あるうち、昔から和歌浦の名が最も知られていたので和歌山の名ができたという説が有力です。藩政時代には「若山」に統一された時期もありましたが、再び「和歌山」に改められました。

※本文は『和歌山県政史 第1巻』を参考にしています。

和歌山県の誕生日は11月22日

和歌山県は誕生以来、多くの先人が今に至る歴史を紡いできました。平成元年7月に公布した「ふるさと誕生日条例」では、ふるさと誕生日を11月22日と定め、「県民が、郷土についての理解と関心を深め、ふるさとを愛する心をはぐくみ、自信と誇りをもって、より豊かな郷土を築きあげることを期する日」としています。

廃藩置県頃の地図（出展：和歌山県政史 第1巻）



《和歌山県の150年》

0

明治

明治4年 (1871年) 和歌山・田辺・新宮三県を廃止し、和歌山県を設置
五條県を廃止し、旧高野山領を和歌山県の管轄とする(和歌山県誕生)

明治12年 (1879年) 第1回県会開会、議員総数43人

明治23年 (1903年) トルコ軍艦エルトゥールル号が大島沖で遭難、死者587人

明治36年 (1903年) 南海鉄道(現南海電気鉄道)(難波⇄和歌山市)が全線開通①
和歌山市で電話開通

大正

大正9年 (1920年) 第1回国勢調査、県人口750,411人

昭和5年 (1930年) 阪和電気鉄道(東和歌山(現和歌山駅)⇄天王寺)全線開通

昭和11年 (1936年) 紀伊半島南部が吉野熊野国立公園に指定される
前畑秀子、ベルリンオリンピック女子平泳ぎ200mで優勝

昭和13年 (1938年) 和歌山県庁舎(現庁舎本館)が現在地へ新築移転②

昭和20年 (1945年) 和歌山市大空襲、死者1,212人※、和歌山城焼失

昭和24年 (1949年) 国立和歌山大学設置
湯川秀樹が日本人初のノーベル賞(物理学賞)を授与される

昭和

昭和33年 (1958年) 和歌山城再建

昭和40年 (1965年) 紀勢本線に特急「くろしお」号新設③

昭和43年 (1968年) 南紀白浜空港が完成し、白浜⇄東京間に定期便を就航

昭和46年 (1971年) 第26回国民体育大会「黒潮国体」開催④

昭和49年 (1974年) 阪和自動車道開通(阪南IC~海南IC)

昭和54年 (1979年) 県立箕島高等学校野球部が甲子園で春夏連覇達成⑤

平成6年 (1994年) 和歌山マリナーシティが完成し、「世界リゾート博」開催⑥

平成16年 (2004年) 「紀伊山地の霊場と参詣道」がユネスコ世界遺産に登録⑦

平成

平成18年 (2006年) 平成の市町村合併で9市20町1村に

平成27年 (2015年) 第70回国民体育大会「紀の国わかやま国体」開催
第15回全国障害者スポーツ大会「紀の国わかやま大会」開催
「みなべ・田辺の梅システム」が世界農業遺産に認定

150

令和

令和3年 (2021年) 和歌山県誕生150年

※は数値が資料によって異なるが、「和歌山市庶務課事務報告書」による。
写真提供: ①②和歌山市立博物館、③箕島球友会、④(公社)和歌山観光連盟



①南海鉄道が全線開通(明治36年)



②落成当時の和歌山県庁舎(昭和13年)



③特急「くろしお」号(昭和40年)



④黒潮国体の入場行進(昭和46年)



⑤県立箕島高等学校野球部が甲子園で春夏連覇達成(昭和54年)



⑥「世界リゾート博」開催(平成6年)



⑦紀伊山地の霊場と参詣道(平成16年)

和歌山県民歌

西川好次郎 / 作詞
山田 耕彦 / 作曲

Andante maestoso

ふくわかやまはとこはるのくにひとのわとぶんかをそ

えていやさらのびよさかえよふるさと

はつねにはほえむ 2.なんご 3.くろが

三、ふいと和歌の黒くろしおの山は更さしはねのしはつねに

二、い汗野の南のうらやの歌は山は移のにはり

一、い人の陽のほののさ更山は映のぼにとはゆると

ふい汗野の南のうらやの歌は山は移のにはり

い人の陽のほののさ更山は映のぼにとはゆると

和歌山県民歌の誕生

戦後間もない昭和23年(1948年)、篤志家から「後世に残るものを何か考えてほしい」と和歌山フィルハーモニック・ソサイエティ委員長の竹中雄氏が依頼を受けて、県民歌の作詞・作曲の一般公募を行い、同年8月に県民歌が誕生しました。作詞者は、小学校教諭の西川好次郎氏で、県内の市町歌や校歌を多く作られています。作曲者は、「赤とんぼ」「この道」からたちの花」で有名な山田耕彦氏です。作曲公募の中に優秀作品がなかったため、選者である氏自らが作曲を行いました。

QRコードから県民歌を聴いてみよう!